

現代中国語の方位詞と乗り物に関わる名詞との 共起について

寺澤 知美

1. はじめに

現代中国語においては、一般的に三次元的特徴の顕著な名詞に方位詞を後置して場所を表す場合、“上”ではなく“里”が用いられるが（例えば“房间里”[部屋の中]、“抽屉里”[引き出しの中]など）、高橋（1988）、保坂・郭（2000）、杉村（2001）、西槇（2004）などに指摘されるように、乗り物については乗り込む空間という三次元的特徴を持つ場合であっても“上”と共起しやすい傾向がみられる。

(1) 但是你知道我在公共汽车上怎么想的么？（梁晓声《表弟》）¹

[だけど、私がバスの中でどう思ったかわかりますか。]

(2) 现在我在飞机上给你写信，今日到上海，明日飞旧金山。

（铁凝《大浴女》）

[今、私は飛行機の中であなたに手紙を書いています。今日上海に着き、明日サンフランシスコに飛びます。]

但し、これらの乗り物についても“上”だけしか用いられないというわけではなく、その三次元的特徴から“里”と共起する可能性もある。

(3) 公共汽车里人不是很多，刘慧芳从中门上车后便站在车箱连接处，……

（王朔《无人喝彩》）

[バスの中の人あまり多くはなかった。劉慧芳は中央のドアから乗車すると、車両の連結部分に立ち、…]

(4) 为了节约时间，他尽可能在海外旅行中乘坐夜航班机，在飞机里读书，审阅报告。（《人民日报》1996）

[時間を節約するために、彼は極力海外旅行中には夜便の飛行機に乗り、飛行機の中で本を読み、報告書を吟味している。]

本稿では、主に名詞に対する空間認知という観点から、このような乗り物に関する名詞に後置される方位詞“上”、“里”の使い分けについて分析を試みる²。

2. 「乗り物」と “on”

前述のように、乗り物については“里”ではなく“上”と共起しやすい傾向があるが、同様の傾向は英語の前置詞“in”、“on”についてもみられる。Herskovits 1986 : 144 は、「大きな乗り物で輸送される物理的対象」(“Physical object transported by large vehicle”)について、例えば、バス(例：“the children on the bus” [バスに乗っている子供たち])、地下鉄(例：“the police officers on the subway” [地下鉄に乗っている警察官])、飛行機(例：“The luggage is still on the plane.” [荷物はまだ飛行機にある。])のように「内包」の特徴が際立っているにも関わらず、「接触・支持」を表す“on”が用いられる理由を次のように述べている。

The vehicle must have a relatively large surface or floor that supports the travelers. If the vehicle is small, surrounding becomes more salient, and on becomes less acceptable: (Herskovits 1986 : 144)

つまり、顕著な三次元的特徴を有する乗り物に対して“on”を用いるためには、その三次元的特徴(「内包」の関係)よりも「接触・支持」の関係が際立つ必要があるが、そのためには対象となる乗り物に一定の大きさが必要となる。反対に言えば、ある程度の大きさがなければ、依然として「内包」の関係が優勢となり、“on”とは共起しにくくなることになる。したがって、「バス、地下鉄、飛行機」などのようにある程度の大きさを有するものでなければ“on”の対象とはなり得ないということである。このような認識は、中国語の方位詞“上”と“里”の使い分けにおいても共通する部分があると考えられるが、どのような乗り物が大きく、またどのような乗り物が小さいと認識されるのかについては英語と中国語において必ずしも一致しない。例えば、Herskovits 1986 : 144 では、“on”が受け入れられにくい乗り物として次の例を挙げている。

(5) *the customer on the taxi

確かに、「タクシー」は「バス」や「地下鉄」などに比べ比較的小さな空間しか有していないといえるが、中国語では「タクシー」についても“上”を用いることが可能である³。

(6) 在出租车上，我把钱包里的三百块钱给他，我知道他没有钱，……

(安顿《绝对隐私》)

[タクシーの中で、私は財布の中の300元を彼にあげた。私は彼にお金がないのを知っていた…]

このように、中国語の場合には「タクシー」は他の乗り物と同様に“上”との共起が可能である。以下、中国語における乗り物と“上”、“里”との共起関係がどのようなものであるのかについてみていく。

3. 乗り物と“上”、“里”について

杉村（2001：56）は、「乗り物の大小や密閉度が認知に一定の影響を与える」とし、同じ自動車であっても「大きいものは“车上”、小さいものは“车里”⁴⁾と表現される傾向が強くなることに加え、「小型車であっても開放的な“敞篷 chǎngpéng 汽车”（オープンカー）などは“车上”が用いられ、「窓にカーテンを降ろして外部から中が覗けないようにしてある小型車の場合は“车里”」が用いられることについても言及している。杉村（2001）の指摘するように、“上”との共起が一般的な乗り物類についても、比較的小さく、さらに密閉性を有する乗り物、例えば“轿子”や“电梯”については“里”との共起の可能性が高くなる傾向がみられる。

(7) 琴的母亲张太太坐在前面的一乘轿子里，……（巴金《家》）

[琴の母親である張太太は、前の駕籠に乗って、…]

(8) 但是这样一来，我就不知死在电梯里的那个老头子是谁了。

（王小波《未来世界》）

[しかしこうなると、私はエレベーターの中で亡くなった老人が誰なのかわからなくなってしまった。]

また、特に密閉度の高い乗り物については、小型車でなくても“里”と共起しやすくなる場合もある。

(9) 他被装在有铁栅栏的囚车里运回马赛。（《读书》）

[彼は鉄格子のついた護送車でマルセイユに送られた。]

例(9)の“囚车”は犯人を護送するという役割を持つ車であることから、ある意味特殊な密閉度が要求される乗り物であるといえる。したがって、通常の乗り物とは異なり、一つの閉鎖された三次元空間として用いられることが多くなり、自然と“里”との共起例も多くみられることになると考えられる。但し、先の“轿子”、“电梯”の場合も含め、全く“上”と共起しないというわけではない。

(10) 一个赤裸的姑娘……突然从囚车上跳下，扭曲着，痴笑着躺在地上……

（《哈佛管理培训系列全集》）

[ひとりの裸の娘が（中略）突然護送車から飛び降りた。体をねじらせ、うつろな笑いを浮かべて地面に仰向けになり…]

- (11) 我坐在轿子上倒也觉得新奇有趣。 (梁实秋《南游杂感》)

[私は駕籠に乗るのも珍しくて興味深いと感じていた。]

- (12) 只有两人被关在突然出故障的电梯上。 (《读者(合订本)》)

[二人だけが突然故障したエレベーターに閉じ込められた。]

まず、例(10)については“囚車”の持つ特殊な閉鎖性ではなく、“跳下”という動作によって表される「上から下への移動」に焦点が置かれ、“上”との共起が選択されていると考えられる⁵。また、例(11)の“轿子”に“上”が後置される背景には、その焦点が三次元的空間の内部に存在するという「内包」の關係に置かれていないというだけでなく、“轿子”の移動中における特徴の一つである地面より高い位置に存在するという部分、つまり“上”の持つ「上方」のイメージと結びついている可能性があることも影響していると思われる。同様に、“电梯”についても“里”との共起が一般的ではあるが、例(12)のように“上”が用いられる場合、エレベーター自体が高い位置にあるというニュアンス（「上方」のイメージ）が含まれるようである。

さらに、「観覧車」や「ケーブルカー」のような乗り物については、比較的小さく密閉性も有するという特徴を持ってはいるが、実際には必ずしも“里”との共起が特に顕著であるというわけでない⁶。

- (13) 在高耸入云的大观览车上，孩子们惊异于北京城市之大，之美。

出典：＜百度＞

[天を突くばかりにそびえ立つ大観覧車の上で、子どもたちは北京の街の大きさ、美しさに驚いていた。]

- (14) 只要事前预订，还可以在浪漫的缆车上用海鲜餐，……

出典：＜人民网＞

[事前に予約すれば、ロマンティックなケーブルカーでシーフード料理を堪能することも可能です…]

「観覧車、ケーブルカー」はいずれも顕著な三次元的特徴を有する乗り物であるが、それだけでなく、低いところから高いところに上がって行くという特徴も持っている。例(13)の“(大)観覧車”及び例(14)の“缆车”のように“上”と共起する場合、先の例(11)、(12)と同様に、「上方」のイメージが影響していると考えられる。また、同様の例として次のようなものが挙げられる。

(15) 从飞机上往下看, 只见比较平坦的东非高原上有一条长长的凹痕, …… (《中国儿童百科全书》)

[飛行機の上から下を見ると、比較的平坦な東アフリカ高原には一本の長いへこんだ跡が見えるだけで…]

“飞机”はそれ自体が十分な大きさを持つ乗り物であるが、例(15)の場合については「接触・支持」の関係だけでなく、「飛行機の上から地上の様子を眺める」という状況から、飛行機自体が上空に存在する、つまり「上方」のイメージも“上”との共起に影響を与えているものと考えられる。したがって、乗り物と“上”との共起には、「接触・支持」の関係だけでなく、「上方」の関係も大きな役割を果たしているといえる。また、この「上方」を表す“上”は例(13)、(14)の“(大) 观览车”、“缆车”などとも共起が可能なることから、乗り物自体の大きさや密閉度による影響を受けないという特徴を持つ。

以上のようなことから、“公共汽车”のように十分な広さを持つ乗り物、つまり三次元的特徴よりもその乗り物との「接触・支持」の関係がクローズアップされる乗り物だけでなく、“观览车”のように三次元的特徴が顕著な小さな乗り物であっても、その「上方」のイメージから“上”と共起することが可能となるのである。

4. “上”と「動き」の関係について

前述のように、三次元的特徴を有する乗り物については“上”と“里”の両方を用いることが可能であるが、両者にはどのようなニュアンスの違いが存在するのであろうか。保坂・郭 2000: 238 は、次のような例を挙げ、「乗り物が“～上”によって場所化されるには本来の機能として『動いている』点が関与的」であることを指摘している。

(16) a我把雨伞忘在电车上了 [私は傘を電車の中に忘れた]

b我把雨伞忘在电车里了 [私は傘を電車の中に忘れた]

(例文、日本語訳ともに保坂・郭(2000)による⁷⁾)

保坂・郭 2000: 238 の分析によれば、例(16a)は傘を忘れた電車が運行中であることに重点があり、例えば「電車を降り、ホームから走り去る電車を見て、傘を車内に忘れたことに気づいた場合」といった状況が想定されるという。一方、例(16b)の場合には、「傘を忘れた場所が電車内だというだけで、電車の運行には無関心である」と指摘している。また、このような傾向を傍証するも

のとして、次のような例も挙げている。

(17) 我把我的钱包落在车里(上)了 [私は財布を車の中に忘れた]

(例文、日本語訳ともに保坂・郭(2000)による)

保坂・郭 2000 : 238 では、例(17)の発話状況として、「自分で運転していた車の中に財布を忘れたことに気づいた場合」であり、「車はすでに動いていない」ことが前提であるとした上で“上”を用いることができないことを指摘している。しかしながら、このような乗り物における「動き」と“上”との共起関係は、少なくとも筆者の行ったインフォーマント調査によれば、必ずしも共通の認識として存在するものではなく、実際には例(16a)と(16b)を使い分けることによって保坂・郭 2000 : 238 が指摘するような明確なニュアンスの違いを表現することは難しいようである⁸。この点については、対象となる乗り物の「動き」が特に意識されない場合についても“上”を用いることが可能であることから明らかである。例えば、日本語の「私は眼鏡を飛行機の中に忘れた」という文を中国語にした場合、次の例(18)のように“上”、“里”のいずれも用いることが可能である。

(18) 我把眼镜忘在飞机上/里了。 (作例)

[私は眼鏡を飛行機の中に忘れた。]

例(18)の場合、発話時の飛行機の状態に関わらず、“上”を用いることが可能である。つまり、“上”が用いられる場合についても、特に「飛行機が飛び立とうとしている、或いは飛び立ってしまった」というような状況が想定されることは考えにくく、“里”の場合と同様に飛行機自体の「動き」には特に焦点が置かれられないことになる。したがって、少なくとも実際のコミュニケーションにおいて、両者の違いを「動き」という視点から使い分けすることは必ずしも妥当ではないといえるが、一方で、乗り物における“上”との共起に「動き」という要素が全く関与しないというわけでもない⁹。例えば、杉村 2001 : 65 は「乗り物はその文が適用された特定の瞬間には動いていなくても、移動の途中でなければならない」ことについて指摘している¹⁰。つまり、通常であるならば三次元的な特徴が顕著な名詞については“里”が用いられるが、乗り物については例外的に“上”を用いることができることに対する根本的な原因として、乗り物の乗り物たる所以、すなわち「動き」が関与していると考えるのは自然なことである。この点については、保坂・郭 2000 : 239 においても、「廃車になった電車や汽車を趣の変わったレストランとして使用しているような場合は、もは

や乗り物としての使命を持たず場所化には“电车里”しか使えない」と述べている。

また、刘宁生 1994 : 174 は“飞机”[飛行機]、“汽车”[自動車]、“火车”[汽車]、“轮船”[汽船]などについては“上”が用いられるが、“机舱”[キャビン]、“车箱”[車両]、“船舱”[船室]については“里”が用いられることについて指摘している。両者のどのような違いが異なる方位詞との共起に結びついているのだろうか。以下、“火车”と“车厢”[車両]の例についてみる。

(19) 早晨来过，说是昨天在火车上没睡好，这会儿大概回家睡觉去啦。

(陈建功・赵大年《皇城根》)

[早朝に来て、昨日汽車でよく眠れなかったって言っていたから、今頃はきっと家に帰って寝ているだろうよ。]

(20) 我曾连续三天在地铁车厢里看见报贩从这一端喊到那一端，……

(《人民日报》1996)

[私は以前三日連続で地下鉄の車両の中で新聞の売り子がこっちの端からあっちの端まで叫んでいるのをみたことがある…]

例(19)の“火车上”については“上”を“里”に置き換えることも可能であるが、例(20)の“(地铁)车厢里”については“里”を“上”に置き換えると違和感が生じる。続いて“车厢”と“上”との共起例をみる。

(21) 车厢上印着“载重 135 吨”、“轻型货物专运”等字样。

出典：＜人民网＞

[車両には「積載重量 135 トン」、「軽量貨物専用」などの字句が刻まれている。]

(22) 在新地铁的车厢中，记者看到，每个车厢上都贴有地铁简图，每条地铁线都用不同颜色区分。

出典：＜人民网＞

[新しい地下鉄の車両の中で、記者は各車両に地下鉄の略図が貼られ、それぞれの路線が異なる色で色分けされているのを確認した。]

例(21)、(22)はそれぞれ車両の外部、及び内部の表面との接触の関係を表しており、いずれの場合も乗り物の持つ「動き」という点には焦点が置かれていない。つまり、“火车”は「動き」という認識に直接的にリンクする「乗り物」としてみなされるが、話者の“车厢”に対する認識は「動き」とは直接リンクしない、単なる「箱」に過ぎないのである。したがって、通常“车厢”が“上”と共起する場合、車両の「中」という認識ではなく、車両の「上、表面」とし

でのイメージと結びつきやすくなる。但し、“车厢”についても乗り物の一部であることから、部分・全体関係に基づくメトニミーとして用いられる場合もある。

(23) “我在 5 号车厢上被人劫持，现在不能通话，只能发短信求助。”2 月 25 日晚上 7 点，北京铁路公安局接到报警，一名 23 岁女子在 1407 次列车上被劫持。 出典：＜人民网＞

[「私は 5 号車で犯人に捕まっています。今は電話で話せないの、メールで救援を求めることしかできません。」2 月 25 日夜 7 時、北京鉄道公安局は、一人の 23 歳の女性が 1407 次の列車で捕らわれたとの通報を受けた。]

例 (23) の“车厢上”は話者が現在乗っている車両、つまり、運行中の列車を指している。話者は、何両かある列車の中の「5 号車」にいることを明らかにするために、あえて“火车”ではなく“车厢”という語を用いていると考えられる。よって、この場合の“车厢”は例 (21)、(22) とは異なり、単なる「箱」ではなく運行中の列車、つまり「乗り物」として認識されており、列車の「中」を指す場合であっても“上”を用いることが可能となると考えられる。

5. おわりに

以上、乗り物に関わる名詞に後置する方位詞“上”と“里”についてみてきた。三次元的特徴を持つ乗り物は、他の三次元的特徴を持つ名詞（例えば“房间里”、“抽屉里”など）と異なり、“里”よりもむしろ“上”と共起する傾向が強いが、それは乗り物の持つ特徴が“上”の持つ「接触・支持」と「上方」の二つのイメージに結びつくことによると考えられる。一方、“里”と共起する場合については、「内包」の関係に焦点が置かれることが必要となるが、特に、大きさが比較的小さい、或いは密閉度が高いというような特徴がみられる乗り物については“里”が選択されやすい傾向がある。これは、これらの特徴が“上”の持つ「接触・支持」のイメージと相容れないことから“上”との共起に結びつきにくくなるためであると考えられる。しかしながら、“上”の持つ「上方」のイメージについては、大きさや密閉度による影響を受けないことから、上方移動を伴う乗り物については“上”との共起も可能となる。

なお、これらの名詞がどのような動詞と共起するかについてであるが、杉村

2001 : 56、西楨 (2004) などにも指摘があるように、これらの名詞自体に対する認識についてのヒントとなる場合もある。通常、乗り物に乗ることを表す場合には“上车”[車に乗る]のように動詞“上”がよく用いられるが、例えば“电梯”のように三次元的特徴の顕著な場合には、「三次元的空間の内部に入る」というイメージが強くなることが予測される。

(24) 可是，当他踏进电梯之后，也是面朝内，背朝外。（《读者（合订本）》）

[しかし、彼はエレベーターに乗り込んだあとも、内側を向いていて、外に背を向けている。]

例 (24) では動詞“上”ではなく、方向補語“进”を伴う“踏进”が用いられている。しかしながら、“电梯”自体が“里”だけでなく“上”とも共起が可能なことからも明らかのように、動詞“上”が用いられる場合もある。

(25) ……，回家上楼不敢上电梯。（《市场报》1994）

[…家に帰って上の階に上がるのにエレベーターに乗れない。]

例 (24) のように“踏进”を用いるか、或いは例 (25) のように“上”を用いるかによって、“电梯”に対するイメージは異なる。つまり、例 (24) には「三次元的空間の内部に入る」という部分に焦点があるのに対し、例 (25) については「上の階に行くための手段」として認識されているというような違いがある。このような名詞に対する認識と動詞及び方向補語との関係については、今後詳しく分析を行いたい。

注

- 1 本稿で用いる例文は、主に北京大学汉语语言研究中心のコーパス<CCL 语料库>によるものである。以下、特に出典の示していないものについては、すべて<CCL 语料库>によるものであるとする。
- 2 但し、“自行车”、“摩托车”などのように、三次元的特徴を持たない乗り物については“上”のみが用いられ“里”は用いられない。本稿では“上”と“里”の両方を用いることのできる三次元的特徴を持つ乗り物のみを考察対象とする。
- 3 もっとも、“出租车”の場合についても“里”との共起も可能である。

坐轮椅的韩国客人在前台登记时，突然发现了随身带的一件行李忘在出租车里了。（《报刊精选》1994）

[車椅子に乗った韓国人客がフロントでチェックインする時に、突然手荷物を一つタクシーに忘れたことに気が付いた。]

この場合の“出租车”は「乗り物」としての機能に焦点はなく、単なる荷物を忘れた場所であり、それが三次元的空間を持つ空間であることから“里”が用いら

れていると考えられる。

4 下線も原文のまま引用。

5 例(10)の“从～上跳下”以外にも、“从～上掉下来”、“从～上滚下来”など、「上から下への移動」が表される場合には“上”と共起しやすい傾向があるが、一方で、次のような例も存在する。

他正担心，忽然看到飞机里掉下来一个东西，又掉下来一个东西，一连掉下来五个。 出典：＜百度＞

[彼が心配していたところに、突然飛行機の中から一つ、また一つと立て続けに五つの物体が落ちてくるのが見えた。]

上の例における焦点は、飛行中の飛行機が存在している「上空から何かが落ちてきた」という部分ではなく、飛行機という「三次元的空間の内部から何かが出てきた」という部分に当たっていると考えられる。したがって、“掉下来”というような「上から下への移動」が表される場合にも、焦点の置かれる場所によって選択される方位詞に違いが生じることになる。このような統語的制約と方位詞選択との関係については、対象が「乗り物」に限定されない問題であり、今後の考察対象としたい。

6 “缆车”についても、その三次元的特徴から“里”との共起例もみられる。

缆车里蜷缩着一对年过花甲的台湾老夫妻。 出典：＜人民网＞

[ケーブルカーの中では還暦を過ぎた台湾人老夫婦が縮こまっていた。]

7 例(16)及び(17)の下線は引用者による。

8 具体的には、例(16a)、(16b)について、方位詞“上”と“里”を使い分けるインフォーマントは少なく、いずれの場合にも“上”(或いは“里”)を用いるとする回答が目立った。また、両者を使い分ける者も若干みられたものの、筆者の聞き取りによれば、必ずしも保坂・郭(2000)の指摘するようなニュアンスの違いまでは意識されていないようである。

9 このようなニュアンスの違いは、英語の“on”と“in”についてもみられるようである。

Some speakers of English make a further distinction for public modes of transportation, using in when the carrier is stationary and on when it is in motion.

(出典：＜online writing lab＞<http://owl.english.purdue.edu/handouts/esl/eslprep2.html>)

つまり、止まっている場合には“in”、動いている場合には“on”が用いられるというわけであるが、この場合についてもあくまでも冒頭に“Some speakers of English”とあるように、必ずしも英語話者全体に普遍的な認識ではなく、中国語においても同様の状態にあることが推測される。

10 同様の指摘は、英語の場合においてもみられる。

The vehicle must be in the course of travel, even if it is not moving at the particular moment at which the sentence applies. (Herskovits 1986 : 144)

乗り物が乗り物としてみなされるためには、その最も根本的な特徴である「動き」が認められることが前提となるが、反対に、その「動き」が認識されさえすれば、必ずしもその瞬間に動いていなくても乗り物として認識されることになる。

主要参考文献

- 尾崎哲夫 2005. 『英語の冠詞・前置詞完全マスターブック』, ダイヤモンド社。
- 杉村博文 2001. 「隙間の中?」, 『中国語』 No.494, 内山書店, 56 頁。
- 高橋弥守彦 1988. 「方位詞“上”と“里/中”について」, 『外国語学会誌』 No.17, 大東文化大学外国語学会, 153-177 頁。
- 保坂律子・郭雲輝 2000. 「名詞を場所化する方位詞“～上”と“～里”」, 『中国語学』 247 号, 233-249 頁。
- 方经民 2000. 〈论汉语空间方位参照认知过程中的语义理解〉, 《面临新世纪挑战的现代汉语语法研究》, 山东教育出版社, 644-657 页。
- 刘宁生 1994. 〈汉语怎样表达物体的空间关系〉, 《中国语文》第 3 期, 169-179 页。
- 吕叔湘主编 1980. 《现代汉语八百词》, 商务印书馆。
- 西槇延子 2004. 〈“里”和“上”的语义特征分布〉, 『中国語學研究「開篇」』 vol.23, 251-261 頁。
- Herskovits, Annette. 1986. *Language and spatial cognition*. Cambridge : Cambridge University Press. (邦訳: 1991 年、堂下修司、西田豊明、山田篤共訳『空間認知と言語理解』 オーム社)